

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

2022 年から
JDS にセネガルが
仲間入ります！

表紙：セネガルの風景



駐日大使館で二国間関係強化に貢献する JDS 帰国留学生特集

JDS×省庁 行政官交流会

日本の行政官と JDS 留学生がオンラインで交流

茨城県青年国際交流機構（茨城県 IYEO）と JDS 留学生の交流
コロナ禍の中での、日本のおもてなし

世界の朝ごはん：セネガル



Mr. Abedin Md Zoynal

駐日バングラデシュ大使館 労働部 一等書記官
明治大学大学院ガバナンス研究科 2017 年修了

現在私は、バングラデシュからの移住希望者のための日本の労働市場の開拓や、日本に住んでいるバングラデシュ人の生活をサポートする業務を行っています。

日本留学経験は、学業面にとどまらず、多方面で二国間の関係強化に役立っていると強く感じています。また、JDS を通じて築いたネットワークも、日本での仕事に非常に役立っています。日本政府や民間企業の方々と仕事をする際に、打合せのために先方のオフィスを訪れると、明治大学の先輩や後輩にお会いすることもあり、温かくフレンドリーな雰囲気の中で交渉等を進めることができます。

私の将来の目標は、バングラデシュ政府の仕事を通じて、国の発展のために重要な役割を担うことです。そして、日本と密接に関わる仕事に携わっていきたいと考えています。

～ 日本関係者からの歓迎メッセージ ～

明治大学での留学経験を活かし、日本の文化や言葉に理解のある、親日家として着任されました。今年は、日本とバングラデシュの国交樹立50周年の記念の年ですが、過去に JDS のプログラムを介して日本に留学したバングラデシュの行政官が、親日家の外交官として日本に赴任することは、日本が実施している国際協力事業が一方的なものではなく、日本にも還元されているという内外一元化の証だと思えます。

バングラデシュ大使館労働部の一等書記官として、日本政府や関係機関とより良い関係を構築しながら、今後、バングラデシュからの多くの人材を、より良い条件で日本へ受け入れてもらえるように貢献されることを期待しています。

駐日バングラデシュ大使館より

JDS を修了した Abedin さんが駐日バングラデシュ大使館において勤務され、日本との二国間関係の第一線で活躍されていることは本当に嬉しいです。明治大学への留学を通じて得られた知見や絆を存分に活用し、今後も知日派公務員として、所属官庁での政策立案などへの貢献、また、バングラデシュと日本の架け橋として活躍されると期待しています。

JICA バングラデシュ事務所より



Mr. Nguyen Manh Dong

駐日ベトナム大使館 商務部 三等書記官
一橋大学大学院アジア公共政策プログラム
2018 年修了

現在は商務担当として、両国の企業を結び貿易関係を促進する橋渡し役となり、日本への輸出を希望するベトナム企業のサポートや、ベトナムへの輸出・投資を希望する日本企業のサポートを行っています。

一橋大学在学中に得た公共政策に関する知識は、両国の貿易を促進する政策立案に非常に役立っています。また、2 年間の留学生生活を通して、日本という国、文化、日本人への理解を深めることができました。留学中は様々な省庁、組織、企業の方々と話す機会があり、これらのネットワークは現在の仕事でも活用しています。

二国間の関係強化に関しては、企業の方々から、日本もしくはベトナムへの輸出契約を結んだというメールを頂く度に、とても喜ばしい気持ちになります。最近では、2021 年 11 月のファム・ミン・チン首相の日本公式訪問に貢献できたことを、大変誇りに思っています。

今後も日本市場の貿易専門家として、「日本とベトナムの貿易、協力関係を強化する」という同じ志を持つ人々をサポートしていきたいと思っています。

～ 日本関係者からの歓迎メッセージ ～

JDS 事業によるベトナムからの留学生の派遣は 2001 年に開始され、合計 750 名以上の大学院生が日本で学びました。JDS 留学生には、Dong さんのように、JDS を通じてベトナムの将来を担う人材として一段と成長し、日本の良き理解者として両国の関係強化に貢献することが期待されます。

JICA ベトナム事務所より

JDS×省庁 行政官交流会 日本の行政官と JDS 留学生がオンラインで交流

2022 年 2 月 14 日から 2 月 18 日の 5 日間をかけて、JDS 行政官交流会が実施されました。本交流会は海外の行政官である JDS 留学生と本邦省庁関係者との間で意見交換を行い、長期的な関係作りをすることを目的として、2015 年より企画・実施してきたものです。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により見送りとなりましたが、今年はオンラインで交流会が実現しました。

まず、外務省、環境省、人事院、経済産業省、法務省、厚生労働省、財務省、国土交通省、資源エネルギー庁の 9 省庁による講義が行われ、合計で 278 名の JDS 留学生が、それぞれ自身の研究分野と関連性のある講義に参加しました。講義では、各省庁の組織や日本の政策について紹介があり、JDS 留学生にとっては新たな視点から自国の組織や課題について考える貴重な機会となりました。

講義後にはオンラインによるメリットを活かし、質疑応答や意見交換会など様々な形式の交流会が実施され、同じ分野で活躍する行政官同士での議論の深化や相互理解を図るための良い交流機会となりました。日本のよき理解者である JDS 留学生と日本の行政官との繋がりが、今後二国間の関係強化により一層貢献していくことが期待されます。



環境省 齊藤雅裕環境技官(画面左上)による説明を真剣に聞く JDS 留学生

茨城県青年国際交流機構(茨城県 IYEO)と JDS 留学生の交流 コロナ禍の中での、日本のおもてなし

長く続くコロナ禍の中、日本で孤立しがちな留学生に日本文化体験や日本人との交流機会を持ってもらうため、今回茨城県青年国際交流機構(茨城県 IYEO)の協力により各種交流イベントを実施していただくことになりました。



茶道を体験する JDS 留学生

筑波大学の JDS 留学生が多く在籍する茨城県 IYEO では、オンライン交流会「Restaurant IBARAKI」と日本文化体験「Tea Ceremony」が実施されました。「Restaurant IBARAKI」は、毎週水曜と日曜に計 10 回ほど開催され、JDS 留学生と IYEO メンバーのみならず、日本人大学生なども参加し、それぞれの自己紹介や言語に頼らず楽しめるオンラインゲームを通して交流を深めることができました。

緊急事態宣言解除後に実施された対面の日本文化体験「Tea Ceremony」では、つくば市の茶道体験教室の先生から日本文化や日本人の思考と茶道の繋がりについて説明を受けた後、実際に抹茶と和菓子をいただく体験もできました。

参加した留学生からは、イベントを実施した茨城県 IYEO への感謝と、さらなるイベント開催への期待の声が寄せられました。また、茨城県 IYEO メンバーからも、「交流を通して、日本人の私も日本文化の奥深さを知りました。日本を伝える側もそれを受ける側も、共に高めあえたことが何よりも素敵でした」とコメントがあり、双方にとって充実した交流機会となったことが窺えました。

日本青年国際交流機構(IYEO)とは？

リーダーシップを発揮できる青少年の人材育成、日本各地域の活性化および国際社会への貢献に資することを目的とする団体です。主に内閣府の青年国際交流事業に参加した青年で構成されており、各都道府県でボランティアによる組織が自主的に活動しています。



セネガル共和国は、1960年にフランスから独立したアフリカ大陸の最西端に位置する国です。フランス領であった背景からも、セネガル料理はアフリカの中でも洗練されており、伝統的且つ異文化の影響を受けた料理と言えます。今回はそんなセネガルの朝ごはんをご紹介します。セネガルの朝食では、「甘いもの」「塩気のあるもの」、2種類の味を楽しむことができます。

Sweet :

セネガルの伝統的な主食である雑穀(トウジンビエ・アワ・キビ等)を使った「チャクリー」(お湯でふやかした雑穀にヨーグルトや豆腐、干しぶどうを混ぜたもの)や「フォンデ」(トウジンビエのお粥)がよく食べられています。また、シリアルにジャムを添えて、「ピサップ」(ハイビスカスジュース)などの地元で取れたジュースを飲む家庭も多いそうです。

Salty :

「ンダンベ」(黒目豆のトマト煮)、「ファタヤ」(セネガルのサモサ)、「アカラ」(トウモロコシの粉で作ったフリット)、ツナのトマトソースがけ、オムレツなどに加え、種類豊富なサンドイッチが並びます。



焼きたてフランスパンのサンドイッチ
塩味系料理やチョコレートなどお好みで

食事の後は、消化を助けるために伝統的なお茶「アタヤ」を飲むのが一般的です。緑茶の茶葉を使い、砂糖をふんだんに入れ、砕いたミントキャンディで香りづけしたりして飲むそうです。また、ギニアの黒コショウを使ったコーヒー、「カフェトゥーバ」も日常的に飲まれています。ピリッとした独特なスパイスがクセになるそうです。

かつて日本人も食していたヒエなどの雑穀は、食物繊維やミネラルが豊富で高タンパク、不飽和脂肪酸を多く含みます。あまり馴染みのないセネガル料理ですが、オーガニックやロハスな生活が注目を集めている今、スーパーフードとして私達の食事に取り入れてみたいですね。

JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます
- 2 **5,410名 21カ国の実績**
※事業終了国の人数も含む
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対象国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が
日本で修士号または博士号を取得します。

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<事業実施対象国> ※受入人数順

ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、
フィリピン、ウズベキスタン、モンゴル、キルギス、パキスタン、
スリランカ、ネパール、ガーナ、ブータン、東ティモール、
タジキスタン、ケニア、エルサルバドル、モルディブ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に着け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画(JDS)は無償資金協力による
JICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

今月の表紙写真は 2022 年度から JDS 事業の対象国に仲間入りするセネガルの風景です。セネガルの国名はウォロフ語で「我々の船」を意味する「Sunuu Gaal」に由来します。カラフルに彩られた船からそれぞれ自分の船に対するこだわりが感じられます。

JDS 事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部 留学生事業課 広報担当
E-MAIL: jds.PR@jice.org